

## ワークショップ4 「消化管疾患とマイクロバイオームのクロストーク」

司会 大草 敏史（順天堂大学大学院腸内フローラ研究講座／  
東京慈恵会医科大学附属柏病院消化器・肝臓内科）  
内藤 裕二（京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学）

次世代シーケンサーによるメタゲノム解析が普及し、各種消化管疾患にマイクロバイオームの関与が明らかになってきた。炎症性腸疾患、機能性消化管疾患、消化管悪性腫瘍、クロストリディオイデス・ディフィシル感染症などと細菌叢、真菌叢、ウイルスとの関与が明らかになっている。しかしながら、マイクロバイオームと宿主との間には様々なクロストークがあり、その理解は極めて重要である。マイクロバイオームが産生する多彩な代謝物の存在も明らかになり、宿主は直接的あるいはトランスポーター、受容体を介してそのシグナルを受け取っている。基礎研究から臨床研究まで多様な演題の応募を期待する。